善光寺境内における北海道記念保護樹木の外科治療
――推定樹齢百九十年の石割エゾヤマザクラの現況と課題――

松浦義夫

樹木の由来

北海道の東に位置するエトロフ島が文化二年（一八〇五）ロシアに侵略され、同国の南下政策が具体的となり、当時の蝦夷地が日本の領土の一部として、国防上重要な事態となった。このような状況下で、善光寺二世住職らん洲上人は近郷の和人を含む多くのアイヌの人達を集め「例えて、木の弾丸に倒れても、捕らえられて勝ち目を受けぬ」と諭した。彼らに多くの仏幡を立てさせ、北方の地を守らせた。という。

その時の記念として上人自ら桜の木を植えたものとされている。

現況及環境

植樹以来二世紀末にならんとする老木である。腐食が進み大きな木洞が出来、枯死寸前の状態であった。

樹幅（樹冠）直径約十メートル・樹高約十三メートルの規模を有するエゾヤマザクラで、道内屈指の大木である。

（エゾヤマザクラは一般的に七十年から八十年が生育の限界といわれる。当樹は約三倍近くの寿命を有している）

根元から数本（一メートル三本・二メートル二本、直径三センチメートル）の若齢木（だい代わりとなる幼木）がある。

現地は噴火湾（太平洋）に面し、濃度の高い潮風が年中吹き付けている。

大きな石を割って成長しており、特別な条件下で生育した桜木である。

外科治療

当樹は、「仏の木」あるいは、「善光寺の宝」とも尊称される名木である。

当代住職木立大定御夫妻は「一年でも長く生かしたい。生きて欲しい」という強い希望のもとに治療を開始した。

根元より上の幹の部分に大きな洞が出来ており、数年前に対策したと思われるコンクリートが詰められている。木部とコンクリートの間に隙間があり腐食菌が繁殖していることが目視される。木層部と形成層の腐食の進行が著しい。同隙間から雪、及び雪解け水や、雨水が入り数年の凍結を繰り返した結果、広い開口部が出来ている。

以上のことからコンクリートを除去し、洞部分の腐食部を削り取る。消毒して、天日乾燥し、防腐剤を塗布する。空洞部分に同種の木部を成型して填め込む。樹脂剤の補強のため、ステンレス性の金編みを張る。その後に、耐久性に優れ、寒暖の変位や塩分による変質が極めて少ない木用成型接着パテ（樹脂剤、一度に大量を混合したり塗布すると発熱することがあるので使用するに当たり練度・経験が必要）を塗布して

表面仕上げを行う。
以上の行程にて治療を終了した。

事前調査と作業
仏木であるため、努めて慎重な作業が求められることから、平成十二年五月より同木及び同木の環境調査を行う
同木の生育する土壌のペーハー測定・土壌成分・岩石の成分・樹冠面積の決定・周辺樹木の生育状況
周辺樹木の除採及び間伐を実施し、採光の確保と風通しの改善を行う。
平成十三年四月七日から同年四月十日に先に述べた外科治療を実施した。

治療後の経過観察とメンテナンス
作業後二年目から胴吹が観察された。三年目から数多くの花が咲いた。
同木の根元が、多くの観光客により踏圧されるので囲いが必要となる。
虫類の食害を防ぐため防除を行う。

参考資料
鈴木和夫『森林保護学』（二〇〇四年四月一日発行・株式会社浅倉書店）
藤原二男『病気と害虫』（二〇〇四年九月三十日発行・鑑誠文堂新光社）

補記
善光寺について
蝦夷地へ、此方より参り居候者共病気死之節、葬候墓所、
先壱カ所も取建、墓守之僧差置、猶追々都合次第、…
享和二年（一八〇二）九月二十一日、函館奉行から寺社奉行への墓所取建について
の陳情に始まり、やがて徳川幕府（第十一代将軍家斉公）により蝦夷地における寺社
建立が始まった。
北方の蝦夷地がロシアの南下政策により度々国境侵犯が起こっていたため、幕府は
松前藩を国替えし、蝦夷地を直轄領として支配することとなる。
前に述べた古文書の翻刻文は、東蝦夷地には赴任した役人などが病気などで死亡し
ても墓や墓守の僧がいないので、その対策を考えてほしいという陳情文の一節である。
以上のことから蝦夷地の寺院として三ヶ所（伊達市有珠・様似・厚岸）に建立され
以後、蝦夷三官寺と呼称されるに至った。
善光寺（浄土宗）はその一寺である。
幕吏探検家松浦武四郎『東エゾ日誌』によれば、和人の定着や邪宗を糺すことなど
の法務活動などが行われ、寺関係の受持区域は八雲から白老まで。当寺の先達はアイ
ヌ語で読誦・説教を行い、あるいはカナ文字を教えるなど文化的にも大きく貢献した
とある。

国定史跡、善光寺の境内（伊達市有珠町一二四番地）には、石割エゾヤマザクラ（昭和四十七年三月一日北海道記念保護樹木指定）のほかに、下記の記念樹木や指定がある。

善光寺銀杏記念保護樹　昭和四十三年三月一日
三本杉記念保護樹　昭和四十七年三月一日
有珠環境緑地保護地区　昭和五十年八月四日
善光寺環境緑地保護地区　昭和四十八年三月三十日

参考資料

善光寺編纂・蝦夷地三官寺有珠『善光寺』（昭和五十七年五月三十日善光寺発行）
等樹院文書編纂委員会『蝦夷地寺院一件記』（全・二〇〇〇年三月三十一日様似町教育委員会発行）

著者（治療担当）経歴
松浦義夫（まつうらよしお）六十七歳
樹医・日本樹医会認証第三三〇号
日本樹医会北海道支部長
環境大学国際樹医育成センター客員教授
善光寺指定樹医
住所・北海道沙流郡日高町富川南三丁目五の二